

入賞作品紹介

④

私と母と新聞

会津若松市 一箕小5年 田崎 妃乃さん

「今日、母ほどの記事に花丸をつけたのかな。そう思いながら、私は毎日、夕ご飯の後に新聞を読みます。」

私の母は、私の弟がお昼寝をした時に、ほっと一息つき、新聞を読むそうです。そして、新聞の記事の中で、一番気に入った所に毎日赤で花丸を付けています。私は、新

聞を読む時に、母の花丸がどこに付いているのかわからず、ワクワクしています。そして、いつのころからか、私もまねをして、自分の一番気に入った記事に、花丸を付けるようになりました。「今年、一番多かった赤ちゃんの名前ラッキンク」などの楽しい記事の時もあれば、「北朝鮮のミサイル」などの

不安になる記事の時もあります。「どうして、その記事が気に入ったの?」。母と私は、私がねる前に、十分くらい新聞の記事について話をします。学校の日は、宿題や部活があり、妹や弟の面どうも見えないといけないので、母と二人でゆっくり話をする時間があります。だから、私はその十分が楽しみで仕方がないので、母の話や話を聞くのも自分の考えを話すのもうれいんです。妹や弟には分からないような、少しむずかしい話をするのも、楽しみの一つです。

今回、「私と新聞」の作文コンクールのお知らせを見て、ぜひ読んでほしい記事が新聞に花丸を付けた。私と母のすてきな十分間は、新聞のおかげだからです。冬休みは、父もいっしょ

私と娘と新聞

母 田崎 奈々恵さん

私の祖父は毎日、大きな老眼鏡をかけて新聞を読んでいます。気にならぬ記事に赤線を引いて読

その私の花丸を真似して、同じように気になる記事に花丸を付けるようになりました。冬休みに、新聞の作文コンクールがあると聞いて、娘が書いた作文を読みました。すると、気になる記事に花丸を付けて読んだ後、私と記事について話をすることが、とてもうれしく思いました。子どもが小学生になると、平日に同じ時間を共有して何かに取り組むことは難しくなりました。テレビを見て、子ども達が笑っていても、家事を

して見逃してしまったり、「ママ、見て!!」と言われても、「今、手が離せないの。後で見るから待っていてね」と言っ、ゆっくり見てあげることができなかったりします。でも、新聞だと読む時間に時差があっても新聞を共有して、記事についてお互いの時間の合った時に話し合うことができます。そこが新聞の良い所だと改めて思いました。これからも、新聞を読むことで生まれる娘との時間を大切にしていきたいと思えます。